

令和4年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	DP を教員と高年次学生から 1 年次学生に重畳的に浸透させるオンデマンド学修システム	
実施組織	農学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	e-Learning センター、中央図書館ピアサポ@Lib、農学部図書館	
取組責任者(所属)	阿久津 雅子、梅澤 公二 (信州大学農学部)	
取組の目標	各コースの DP を教員と高年次学生から 1 年次学生に重畳的に浸透させることを目的とする。	
1. 目標達成のために行った活動と、その成果 ※活動、成果ごとに番号を付けて箇条書きで記載する。 ※成果の詳細は必要に応じて別添 としてもよい。	<p>【活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 先輩から後輩への学習支援「学修アドバイザー」を実施した。オンライン面談および伊那キャンパス内で対面希望には対面で行なった。 授業配信を補助する「ICT サポーター」の運用を開始した。伊那から松本の遠隔 PC 補助を行なった。講師のオンライン配信および録画動画の SHINtube アップロードの負担軽減を行なった。 農学部 FD にて、これまでの学内版 GP 取組および「ICT サポーター」利用について紹介した。 <p>【成果】</p> <p>学修支援は相談申込 56 件(うち 8 件は 1 年生)があった。ICT サポーターは 1 年生対象の 4 科目(コース概論科目)について実施できた。</p>	
2. 目標達成度に関わる自己評価、理由、今後の展望 ※a-e から該当するものを選び、その理由と今後の展望を記述	<p>【自己評価】</p> <p>「取組の目標を達成できた。」について</p> <p>a: 非常にそう思う。</p>	<p>(自己評価の理由)</p> <p>相談申込件数は昨年度(R3 年度:22 件、うち 14 件は 1 年生)から大幅に多くなった。1 年次にアドバイザー利用した学生が 2 年次になって利用しており、本取組の目的が達成されたと考える。本年度の相談実施後アンケートでは「とても満足」「満足」が 100%だった。さらに、ICT サポーターによる授業配信補助システムを運用できた。PC リモート操作や授業録画のノウハウを養成・指導することができた。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>学修アドバイザーの運用を継続していくことで周知および学年の縦のつながりを強めていく。また、授業配信補助について、高校生の先取り履修など高大連携へ向けた取組につながると期待できる。</p>